

「第2回経営諮問委員会（アドバイザリーボード）」の概要

第2回経営諮問委員会（以下、「アドバイザリーボード」という。）の概要につきましては、以下のとおりであります。

当社側から、平成18年度の決算概要、第1次中期経営計画および経営強化計画の進捗状況、第1回アドバイザリーボードにおける提言事項の施策への反映状況等について説明し、その後、各委員の皆様からご意見を頂戴いたしました。

1. 日時

平成19年6月4日（月） 10：30～12：00

2. 場所

紀陽銀行 本店

3. 出席者

【経営諮問委員会委員】 <五十音順、敬称略>

上山 英介 大日本除虫菊株式会社 代表取締役会長
小田 章 国立大学法人和歌山大学 学長
島 正博 株式会社島精機製作所 代表取締役社長

【紀陽ホールディングス出席者】

片山 博臣 取締役社長（紀陽銀行 取締役頭取）
古出 哲彦 専務取締役（紀陽銀行 専務取締役）
瀧川 千秋 常務取締役（紀陽銀行 常務取締役）
木下 泰明 常務取締役（紀陽銀行 常務取締役）
林 宏 監査役（紀陽銀行 監査役）
羽山 喬 監査役（紀陽銀行 監査役）
増尾 穰 監査役（紀陽銀行 監査役）

【紀陽銀行出席者】

雑賀 均 取締役
米坂 享 取締役
阪本 彰央 取締役
泉 清映 取締役
松岡 靖之 取締役
上野 隆司 取締役

営業推進本部 ピクシス営業部
部長 田辺 治、調査役 吹田和彦

【事務局】

紀陽ホールディングス グループ企画部
グループ統括リーダー 為岡英喜、グループリーダー 稲田貴一、宮下 洋

4. 片山社長挨拶要旨

- ・ 昨年10月に紀陽銀行と和歌山銀行が合併し、同時に第1次中期経営計画を策定いたしました。平成18年度は合併後、初の決算となりましたが、順調なスタートを切ることができたと考えております。
- ・ 「お客様から選ばれ続ける銀行」を目標としており、中期経営計画の目標数値を達成するだけでなく、地域の皆さまの声に真摯に耳を傾け、日々の地道な活動を実践していくことが大切であると考えております。本日はそういった点において様々なご意見を頂戴したいと思っておりますので、忌憚のないご意見、ご提言をいただきたく存じます。

5. 弊社からの説明要旨

紀陽ホールディングス・グループ企画部および紀陽銀行・営業推進本部より以下の内容について説明をいたしました。

①平成18年度決算概要について

②中期経営計画および経営強化計画の目標と実績について

- ・ 数値目標の達成状況
- ・ 主な取り組み内容

③第1回経営諮問委員会（アドバイザリーボード）の提言事項の施策への反映について

- ・ 顧客満足と地元への利益還元の取り組み、地域への信用供与等に関する提言事項に対して、店舗のリニューアル、ビジネスマッチングの機会提供などの主な施策への反映状況について説明

④和歌山活性化の取り組みについて

- ・ 地域活性化に向けた行内プロジェクトチーム（紀陽銀行）を編成し、外部機関との連携も視野に入れた活動を考えていることを説明

6. 委員の皆様からのご意見等について

委員の皆様から以下のご意見、ご提言をいただきました。

＜経営計画の取り組みについて＞

- ・ 19年3月期の決算内容については、役職員の努力が結実したものであるが、引き続きご努力いただきたい。

＜地域経済の活性化について＞

- ・ 地元の金融機関として地域の活性化を図ろうとしている姿勢がよく伺える。地元の自治体も特産品のPR活動などに取り組んでおり、今後は産官学の協力と連携を強め、より大きな活動につなげていくべきである。
- ・ 地元の木材産業が国際競争力をなくしたため、山林が荒廃してきている。山林の再生については時間と費用がかかる。地元自治体も山林の再生に向けて力を入れており、地元金融機関として山林に対する融資などで応援いただければと感ずる。
- ・ 目先の利ぎやを追求するのではなく、地元の企業を下支えする活動として本当に芽が出かかった企業に対する支援を強めていただきたい。原石ではあるが、磨けば光る企業もある。小さな企業にも知恵を絞った支援をお願いする。
- ・ 学生の中にも起業を考えている者もいる。どういう風に企業を作っていくかなどの指導をいただくのも良い。
- ・ 金融機関は地元自治体をはじめ外部との接点が多いと思うが、そのような接点を利用した地域経済活性化に向けた支援活動を根気よく続けていただきたい。
- ・ 地元を活性化する原点は、安全で安心できる街を作ることであると考えている。それにはまず街を明るくすることが重要である。街を明るくすると心も明るくなり、心が明るくなると良いアイデアが浮かんでくるものである。
街路樹などをライトアップし、街を明るくする活動にご協力いただきたい。
- ・ これからのビジネスは感性が重要である。感性のないところには人は寄って来ない。感性を大切にした活動をお願いする。

以上のご意見を頂戴し、当社としましては、山林再生に向けた支援、地域経済活性化に向けた自治体等との連携、創業・新事業支援活動の強化、安全な街づくりへの協力について検討を進めていくことといたしました。

以 上